

パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテスト開発 「社会の形成者としての市民的資質」を評価するペーパーテストの可能性

豊 嶋 啓 司（福岡教育大学） 柴 田 康 弘（飯塚市立穂波西中学校）
平 田 大 夢（福岡教育大学大学院生） 野 田 惟 仁（ ）

なぜ、社会科でパフォーマンス評価なのか？（問題の所在）

「なぜ、パフォーマンス評価による社会科ペーパーテストか。」それは、社会科の究極目標「社会の形成者としての市民的資質」の育成が、評価する手続きにおいて未だ要領を得ないため、社会科の現場は「用語の暗記」に堕してしまい、正鵠を射ることを断念しているからである。殊に大きく的外した中等社会科における授業実践の常態化から、我が国における中学生の市民的資質育成が著しく疎外され続けている状況を打開する一手立てとして、「他者との関係構築的な認識形成」を目指す社会科固有のパフォーマンス評価は喫緊の課題である。

どのような枠組みに拠るか？

発表者は、これまでに「社会の形成者としての市民的資質」を育成するための社会科学習指導の理論的枠組「かかわりの知¹」を提案した。こ

表 1. 「かかわりの知」による関係構築的評価枠組

社会事象間の関係（係わり）…関連性

- 社会認識内容としての関係 …事実／価値
 - ・関係構築の要素（いわゆる個別的知識）としての事実認識
 - ・個別的関係認識
 - ・概念的関係認識
 - ・価値関係認識

認識主体間の関係（関わり）…他者性

- 社会認識方法における他者性（相互作用）としての関係 …アングレメンテーション
 - ・他者への自己認識の説明
 - ・他者認識の活用（引用・援用・批判・妥協・調整など）
 - ・討論など他者との直接的な対話的交渉

社会事象と認識主体の関係（拘わり）…状況性

- 参加を促す状況（課題に向かう目的）提示としての関係 …パフォーマンス課題
 - ・社会論争問題としてのパフォーマンス課題…現実社会への参加要請
 - ・学習活動遂行としてのパフォーマンス課題…共に学ぶ社会への参加要請

の「かかわりの知」とは、三つの「かかわり」、つまり、①事実関連の「係わり」、②対話的交渉による認識形成の「関わり」、③問い続け、学び続けるコミットメントの「拘わり」である。社会科に限らず教育評価の公理とも呼ぶべき「指導と評価の一体化」の原則から、本発表における評価枠組においても、前提とする指導枠組と一体化させるうえで「かかわりの知」を基盤とする。評価枠組の具体的な要素は表 1 の通りである。

加えて、評価の性格を①直接内容準拠評価、②再構成探求評価に区別して問題事例の開発に当たった。なお、「評価の性格」の分類及び具体的な問題事例については当日発表する。

¹拙稿「社会科蘇生の脱構築 - 「かかわり」の知をめざす社会科授業設計 -」『社会科研究』第 67 号、2007 年、pp.1-10。